

日本カトリック看護協会会報

No. 3 昭和33年4月

本部 東京都新宿区下落合280 聖母病院内



看護における キリスト教の精神

横浜教区 松村 神父

「汝の近きものを己の如く愛せよ」との主イエスの御言葉こそ看護におけるキリスト者の持つべき精神的要素でなければなりません。現代の医学医療において、決して心理的現象と云うものを除外する事は稀であります。

病氣と云うものが人間の精神面、知性面に大きな影響を与えると云うことは正しく病人を看護しようとするものにとつては当然知られている筈であります。従つてこの影響に対していかなる処置を取らねばならないかを常に研究又は配慮するということが看護における一つの大切な課題となつて参ります。

イエス様が度々ファリサイ人の前において病人をいやし給うた時に「汝の信仰汝を救えり」と申された事はこの問題についての最終的な解決ではないでしょうか。勿論イエスさまの如く奇蹟による病氣の快癒という方法は取り得ないにしても、信仰が病者の精神面に対する力は偉大なるものであります。最近ひんびんと噂に聞く病氣を信仰で癒すと云う新興宗教の在り方はこの問題とは全く異つた事であり、それは医学に対する無知と進歩の障げとを大きくする許りでありませぬ。

当然看護者においても正しい信仰が要求され、真の愛が要求されてくるものであります。

看護者の正しい信仰の表現は、病者に対して一つの力ともなり、助けともなりそれが信頼と云う点にまで移つて行くのです。この信頼こそやがて病者をキリスト教的愛によつて包み、彼を真の信仰へと導くことになりましょう。正しい信仰の表現と云う時、看護者は決して聖職者ではないと云う事、即ち聖職権と云うものをその職においては執行するものでない事を考えなければなりません。往々にして病者は看護者に対する信頼からその分野を越えた所迄従つてしまう危険もあります。その場合に看護者は必ず自分の

信仰の源がいずこにあるかを示し、そこにキリストの真の教会の組織を見せるのであります。聖職者のこの場合における特別の任は、医師と看護者の任務に真のキリスト教の精神的要素を示す準備を与え、これを病者に容易に知らしめることであり、尚秘蹟の授与に立つてであります。

而しその危険即ち分野を越えた行動でない限り看護者に対する信頼というものに最大限に報いなければなりません。その信頼を裏切るような行偽こそ「汝我が病みたりしに訪い」との主イエスの御言葉に反対の立場をとる事になるのです。病者が看護者に対する信頼はその職務上の性質からしても己づと医師に対する信頼とは異つて来ます。医師に要求することを、看護者に要求はしません。又看護

者に対して要求することを、医師には要求しません。それゆゑに同じ病者を扱うにしても医師と看護者の職務はそれぞれが協力し乍らも独立性と云うものをもっているのです。この点について看護者はいかにその職務に重大な信頼がかけられているかを考えながら行いに入つて行かなければなりません。病者の看護者に対する信頼は善きサマリヤ人に対する傷つける族人の信頼であり、看護者の病者に対する愛は善きサマリヤ人の傷つける旅人に対する愛でなければなりません。病者にとつて看護者は生涯の行きすがりと人であり、看護者にとつても病者は自分のその職務における生涯に逢う多くの行きすがりの人々の内の一人であるのに違ひないのです。にも拘らず主イエスは「己の如く愛せよ」と命令なさるのであります。その病者がたとえキリスト者であろうとなかろうと、又は反キリスト者であろうとも看護者と病者の相互の関係の好結果は看護者のキリスト教精神によつて生ずる事をも忘れてはならないのでしよう。貴女の天職は主イエスの申された最大の掟の内にその泉を見出す事が出来るのです。

神祕体への自覺

第二回世界信徒使徒職大会に出席して

桜町病院・医学博士 森口幸雄

感動した講演

二三、私の心に強く残つたものを紹介したい。

先づミラノ大司教モンシニョール、モンテイーニーの「教会の使命」と題して「教会の使命はキリストを存続させる事である。教会は二つの異つた要素をもっている。第一同一性、即ち使徒から今迄の保存、言行一致、生活様式、信仰、存在の同一性、第二は動き、即ち世々伝える事、時と空間にのびてゆく事、活気のある事、拡張性、永遠への希望である。又キリストから流れてつきぬ泉から二つの結果が得られる。第一は教会の使命の正統性、第二は伝道能力と真理の世襲である。これ等の要素の上に立つ教会の使命は救霊即ち神の王国をもたらす事にある。福音北に於て神の王国をもたらす事即ち、キリストの生命をこの世に延長させる事、教会を作り代々に伝え、信仰

と聖寵と福音の働の中に実をみのらせる事である。信徒使徒はこの世間に生活し且教会当局の為非常に有益な、インフォメーションを与える協同作業をしてほしい」旨のべられ又使徒第一の問題であり且特に末信者間に於る信徒使徒の問題である。心理的影響についてのべ、我々信者は世間に向つて教会の代表として「キリスト教が感嘆おくあたわないものである事、魅力的なもので人の心を捉えるものである事、同情的なもので、世に示すべきである」と言われた時、日本に於てむしろこの逆の先入観をクリスチャンと他から言われる場合与える事になるのだと反省し、我々信者は我が国に於て他人から心理的にも「感じのよい人」と言う様に思われるべく協力しなければならぬと思つた。又使徒職の二大ポリシーについて言及されたが、これも私の心の中に強い印象を投げた。「使徒職の大き

なポリシーは」とモンセニヨール、モンチーニは語を強め「他の上にあつて引きつける事ではなく、下にあつて仕える様にする事、自分の興味を中心として動くのではなく、他人の興味を中心として動く様にする事である。」この言葉を特に布教国と言う名の日本に於て働いておられる邦人修道女が、その職場で接触する他の人々の間に於て実行されたらその成果は素晴らしいであろうとも考えた。最初の項で結局大切な事は愛である事を示され非常に美しく次の様に言われた。「近いものを受しましょう。遠いものを受しましょう。カトリック信者を受しましょう。離教会、プロテスタント、聖公会、無関心の人々、回教者、異教徒、無神論者を受しましょう。すべての社会的階級の人々を受しましょう。特に援助を必要とする階級及び昇級を必要とする階級の人々を受しましょう。子供、老人、貧しい人々、病人を受しましょう。我々を嘲笑する人々、我々を軽蔑する人々、我々をどけものにする人々、我々を迫害

する人々を受しましょう。我々に愛されるに値する人も値しない人々も愛しましょう。我々の反対者を人として愛し敵としない様にしましょう」つづいて原稿を下におかれ「我々キリスト者に敵という概念があつてよいだろうか。我々の内に敵という概念はあるべきではない」と附加えられるやその拍手はしばらく止むことを知らなかつた。「我々の時代、我々の文明、我々の技術、我々のスポーツを受しましょう。お互に理解し同情し、尊敬し、仕え、苦しむことを学びましょう。キリストを心から愛しましょう。『労苦する人、重荷をおう人、すべて私のもとにくるがよい。(マテオ11/28)』といわれたキリストを鑑として愛しましょう」との言葉に参会者を感じさせ、我々信徒が教会の使命の協力者として召出されていることの責任を深く感じさせられた。

考えさせられたこと

(1) 使徒職の中心は何といつても精神性、靈性的問題であり、それは聖靈の問

題であり、祈り、秘蹟を中心としなければ何も出来ない。出来たととしてもそれは、人間的業績にすぎない。(2) 自分の職業、家庭、社会、行政、政治、経済産業についての一般的知識と深さを、自己の限界内の最大限迄通曉し、勉強しておく、自分と同じレベルの者と話す時はその各分野において決して引を取らないだけの豊富な知識を有する様努力すること。(3) 自分の職業、家庭、社会、行政、経済、政治、産業についての教会の教義と倫理又は回教や指導方向について一般的知識と同じく、あますことのない点まで深い知識を有していること。(4) (2)と(3)の研究によつて、自分の行動言語発表、出版等の機会に、キリスト教の正しいこと、又その倫理観、政治観、経済観、産業観等が一般の世間的意見——もし誤があれば——に対し優位を有し、学問的に又論理的に真理に近いことを示す様努力しなければならない。このことこそ教皇が言及された如く我々信徒に課せられた一大使命である。

(註) 世紀より引用



復活

地震

天地をゆるがし

おゝ 光の海

主、今ぞいでます

キリストは蘇り給えり

栄光の生命

大いなる哉、我等の希望げに

キリストは神なり

故郷

東横病院小児科 前田 徳尚
 兎を追つたり、小鮒を釣つたりした故郷の山川をなつかしむ心は遠く離れていればいる程強いと思う。私は白毛がまじつて又禿げかけて来た今でもなお時々夢を見たり帰りたいのだから病院に勤務している数多くのうら若い諸嬢が月を見ては、終電車の音を聞いては望郷の思いに一人涙ぐむ心情には察するに余りある次第である。同郷の人に会えばその人が誰であろうが百年の知己の如くごく近いものを感じるのとはただ私のみではあるまい。

先日私は診療に忙殺され完全にグロツキーになつていた時往診を頼まれた。断つて家に帰つて休みたかつた。しかし患児を思い、その家族を思つたとき、いやと云うことも出来ず辛い思いで出かけて行つた。型通りの診察を終えて帰ろうとしたら、どうもその児の母親の言葉が気にかかり、所謂お国なまりを感じたので故郷を尋ねると同郷人でも中学時代の友人の子で、数日前上京して来ての発熱と分つた。私のつかれはふつ飛んだ。そして故郷の誰がどうしていると言う話に花が咲いて時のたつのも忘れ、不精者の私が明日の往診をさえ約束して帰つた。その日一日は楽しい、はずんだ気持ちであることが出来たんだから我々らあきれた現金な話である。所がカトリックの信者となると数少ないことおびたしい。学生

時代のことであるが、さいはこの某市の病院でアルバイトをしていたことがあつた。その時日曜日に教会を探してようやく御ミサに間に合い、そのあと信者会館で一同朝食兼昼食を神父様と共にとつていたときに、突然一人の紳士から君は函館の前田の息子でないかと尋ねられたので大変驚いた経験がある。カトリック信者はどこに居ようが教会にさえ行けば必ず一人や二人の知人を見出せる筈である。たといこの世の故郷を同じうしなくても、その目指す永遠の故郷はただ一つなのであるから一層親しくしなければならぬのは、当然であろう。にも不拘私自身を省みるとき自己の罪の究明をないがしろにして人様の罪の究明ばかり汲々としているあさましさに腹立しさを感じずにはいられない日々である。

小さな思い

七里ヶ浜聖テレジア療養所
 綿貫 信子

1, 美

どんな醜いものにもでもその中に、そのものの「美」を見出さなくてはならない。この世の中に存在しているものであつて、何等かの形に於て美しくないものはない。この世の中に魂を以つて生きていくものであつて、自ら幸福になる素質を、人を幸せにする力を何処かに持つていないものは屹度ない。自らある事知らなくつたつていい。得意になつたり独

支部通信

新潟教区支部便り

新潟地区では、去る2月26日に、聖園サナトリウムに於て第二回目の会合を開きました。出席者は、霊的指導司祭高橋師、ヨゼフテルグラネ師、医師二名、支部長始め看護婦のシスター五名、看護婦六名中一名は鶴岡市より遠路もいとわず御出席下さり一同心うたれました。何分にも役員決定後最初の集りの事とて、無経験でいろいろの点に計画通り行かない所がございましたが、これによつて反省し、将来の活動に備え度いと考えます。

会は、支部長クロチルダ童貞の開会の辞に始まり、霊的指導司祭高橋師の信仰に根ざして芽生えなければならない、カトリック看護協会の運動についての御講話をいただき、引き続き、サナトリウム所長岡田先生の「結核療養所の患者の心理状態について」⑧肺結核と診断された時の患者の心理、⑨新入者の態度、⑩療養所と云う社会の特色、⑪各人の生活の特徴、等について講義がなされ、次いで、磯貝先生がカトリック看護婦の業務上困難な諸問題に就いて疑問に思う所を質問に答えて下さいました。それによつて良い結果を得ました様に思われました。次に座談会の一時に移り、新潟地区に於ては、此の良き協会の歩みをどう発展さすべきか等に就き一同の御意見等を発表いただき、微力ながらもJCNAの発表の為に一人でも多くの新会員の入会に努力し、又各病院の諸部門に於て色々研究の上、次会に発表して頂く様に致しました。次会は御復活直後の予定です。

最後に高橋師により降福式が行われ、会員一同カトリック看護婦としての新たな自覚と使命の重大性を痛感し、御恵み豊かに希望にみちて散会致しました。尚御出席頂けませんでした会員の方々には、会合の様子をプリントにして御送り致しました。

教区長より大きな御力添えを頂戴致し、一同元氣一杯努力して行き度いと存じます。

末筆ながらカトリック看護婦協会役員の方々に心からなる感謝お捧げ致しますと共に今後共宣教御願ひ申上ます。

横濱教区支部

石塚千代子

中央から遠く離れたグループの熱心な御報告の後を受けて、次に横浜支部はペンを取る手がにぶるのでございます。と

りて自暴になつたりしてはならない。併しそれのある事を自信しなくてはならない。人間を見る時、この世のものを見る時、その人に与えられた神意の「美」を見出さねばならない。それこそ総ての分析、抽象を離れたそのものの上に溢れる輝きなのだ。

2, 友情

退屈まざれにと読んだお伽噺の本の中にこんなのがあつた。

昔々或る所に狐と猿と兎とがいました。この三匹は余りに仲が良いので、その友情の本質が見度いというのでそれぞれ一番上等な獲物を探しに森の中へ出て参りました。狐は川へ魚をとりに、猿は木から木へと渡つて木の実をとつて、兎は与へたのでした。兎は狐と猿に枯枝と枯草を取つてくる様に願ひました。そ

兎は禁火をたいて、その焔の中に身を投げ、可愛想に兎は焼死にながら、「私は智恵も技能もありませんから、何も差上げられません。この身を焼いて上げますからどうぞ召上つて下さい。」と云いました。

大体こんな内容であつたが兎によつて現されている心情には素朴で単純な童心をみると同時に無能な自分を友のために生かしてゆこうとする友情に愛と美の本質がうかがえるのではないだろうか。

3, 弱さ

出来ないからこそ、人間は贅沢が好きなのだ。放埒と自由を限りなく要求する。私達には出来ないからこそ諦めて、御互に都合のよい様に生きて行こうとするのだ。罪悪が或る時には強い魅力となつて迫つて来る事を誰が秘かに確信しないであろうか。だからこそ私達は道徳を讃美し、節制を尊ぶ。

4, ユーモア

ある事がユーモラスであるといえるためには二つの条件。

第一は笑い、ユーモアの笑いはほほ笑

第二にそのほほ笑みは、人間の善意とか本人は至極本気で人からみるとその真面目な言葉や行為が時に引き起す「おかしみ」から自然に誘はれ出るものでなければならぬ。

人間の善意や本気さに起因するだけにその笑いは上品であつたかかく、時にはペイソス(悲哀)というかしみじみとしたものを感じさせるのである。

緊張したトゲトゲしさをふとやわらげてくれるだけに、平凡な散文的な現実、非理性的なものが総て許されぬ日常の世界にあつて真珠のような輝きを持つ。

申しますのは「めぐまれ過ぎてフレームの中で眠つている」といつた状態にあることを認めなければならないからなのでございますが、皆様の元氣な足ぶみに眼を覚まして頂いて、今から直ぐ立ち上る決心でございます。さて眠つている間にもよい種は芽を出し、実を結びはじめておりました。三島、上田、神山、小田原地区の新しいグループが次ぎ次ぎに結成。特にカトリック関係にある病院では毎月の集会を定期的に行つております。その中の一つ、川崎の東横病院の集会は最近活発なもので二名の聖書の当番が会員を始め、教えて頂いた神父様からも質問攻めに合つて、目を白黒させ乍らもこれに答えて、楽しい研究を続けております。又小田原協会のフィナテ神父様は五月の連休を利用して支部会員の為、三日間の黙想会を鎌倉、箱根(皆の都合のよい方)に予定して下さり、その申込も始まりました。次に静岡地区でも今年は研修会を兼ねた会員の親睦会の計画も立てている由、そしてこれ等をつなぐ支部機関紙『ともしび』に拍車をかけて下さるのが、横須賀の聖ヨゼフ病院グループなのでございます。この様に申ししましても、個々に散らばつている会員との集りは誠にむずかしいもの、しかし、小さい小さい歩み乍ら、先づ自己の成聖に重きを置き、その中からあふれ出る“愛のほほえみ”の布教でありたいと努力致しております。私達一人一人がキリストの神秘体に生きることを本当に自覚しこれに根をおろして進む時、その「小さい平凡」の中に“主の平安”と喜ぶうたうことが出来るのではないのでしょうか。

皆様、どうぞ各地の声をどしどし聞かせて頂きとうございます。ではよい御復活をお迎えなさいませう様、お祈り申し上げます。

看護教室

月刊 1部 50円 1年 600円

看護学雑誌

月刊 1部100円 1年1,200円

助産婦雑誌

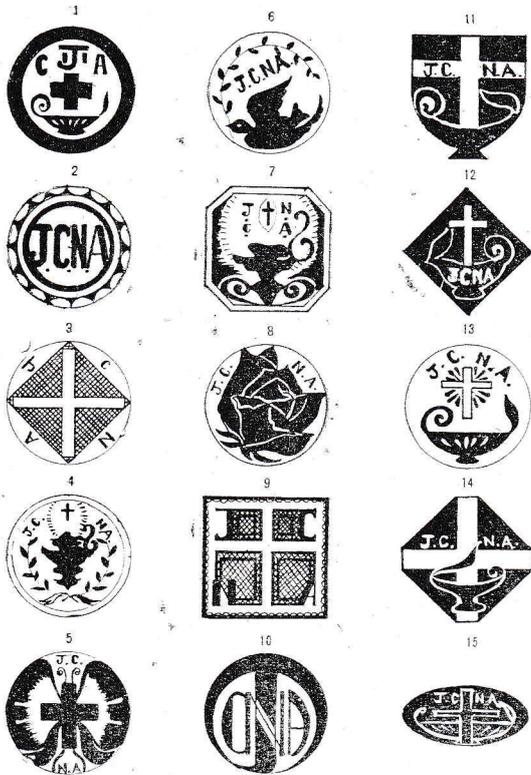
月刊 1部 80円 1年 960円

保健婦雑誌

月刊 1部 80円 1年 960円

年極前金読者には綴込表紙
(誌名金文字入贈呈)

医学書院刊



会員バツチの希望投票

かねて募集中のバツチの図案が出来ました。皆様の最も良いと思われる図案のナンバーを本部迄希望投票して下さい。

本部研修会開催

本部に於て、下記の通り研修会を計画致していましたが、会員皆様の御希望をお知らせ下さい。

期日 昭和33年8月1, 2, 3の三日間

第1日 黙想会 第2,3日 研修会

時間 午前9時半～午後5時迄。

研修内容

①心理学

- A. 青年心理
 - B. 臨床心理
 - C. 社会心理
- } の内いづれか一つ

②カトリック的倫理の立場より見た産児制限

③日本に於ける癩の現状

④精神病患者の看護について

○回答は本部栗原姉迄5月10日必着のようにお送り下さい。

○三日間の中、出席は自由に出来ます。

○会費(1日100円) 宿泊料(1泊食事付200円)

本部役員会

本部に於いては3月10日、クレメント・ヴオドレ神父様、松竹神父様に御臨席いただき、井深会長以下役員5名出席、既刊の機関紙並びに次号機関紙について検討、又夏期に開催予定の研修会の事、其の他本部基金の募金等、種々協議し4時20分閉会した。

尚、井深会長より、今年度中に支部会員のために各支部会長は、黙想会を開催して頂き度い旨の要請がありましたので御高配のほどお願い致します。

会報巻頭に連載して下さっているクレメント・ヴオドレ師はオーストラリアのメルボルムに生れ、フランシスコ会神学院で学び1940年12月21日司祭に叙品、1943年大平洋戦争時、従軍司祭として活躍、1946年4月、日本駐屯岩国キャンプで2年間、1953年新たに宣教師として来日、翌年9月より聖母病院修道会付主任司祭として赴任、昨年11月発足したJCNA霊的総指導司祭として御活躍なされ現在に至る。以上略歴。

改訂 看護必携

編集 聖ルカ病院 日野原重明

看護必携を推奨する 聖ルカ病院長 橋本寛敏

忙しい看護の業務に従事する際に、看護業務に直接間接関係のある知識についての疑念が生じて、一寸迷うことが度々ある。手近に辞書のように、その疑問を解いて呉れる本があれば、良いなと思う。

このような誰にもある要求を満たすために、看護必携がつくられた。これは図書室に備える本ではない。看護ステーションに置いて辞書のように用いる本である。何処にでも携えていき、又仕事場にはこれを常備することによつて、看護婦は賢い人として、正しい仕事を能率的に実行することができる。

主要内容 基礎看護法・薬物学・細菌の分類・内科疾患の理解と看護・食餌療法・麻酔の知識と各手術前後の看護・育児、小児の疾患・産婦人科の理解と看護・性病・皮膚の病氣・耳鼻咽喉科・救急処置・臨床検査の手引

新書版 560頁 800円

写真解説 看護技術

確実な習得を望む 厚生省看護参事官 金子光

教室で学ぶ理論が、原理原則であることはいうまでもありませんが、この原理を応用して、看護の機能を発揮するためには、各個人の学生が最も具体的にそして實際的に、自分の眼で視、且つ自分の手でやることによつて生々しい体験を得ることが主要なことなであります。

本書は看護学院に専任の教員として教鞭をとる中堅の先生方が自ら選び、研究し工夫された看護の技術に関する解説を、眼で視るこるによつて覚える方法をとつて編さんされたもので、細かくゆきとどいた基本的看護技術の良い書で、此の種の出版物としては最も新しく、優秀なものと思います。学生も又働く看護婦の方々もこの技術を写真を通して眼で視ることによりおぼえ、更に次には自分達の手によつてやることによつて確実に自分のものにして下さることを希望します。

A 5判 400頁 写真701 950円

東京・文京・本郷6～20 医学書院

58. 4. 2,5